

平成19（2007）年8月4日

**みよしキャリア教育ネットワーク事業
構想提案**

～ はじめる・つながる・うまれる・うみだす～

グループB

要約

□ 三次市における教育の現状と課題

□ 調査設計

全体設計

実施手法

調査結果

□ 調査まとめ及び分析

□ 提案施策

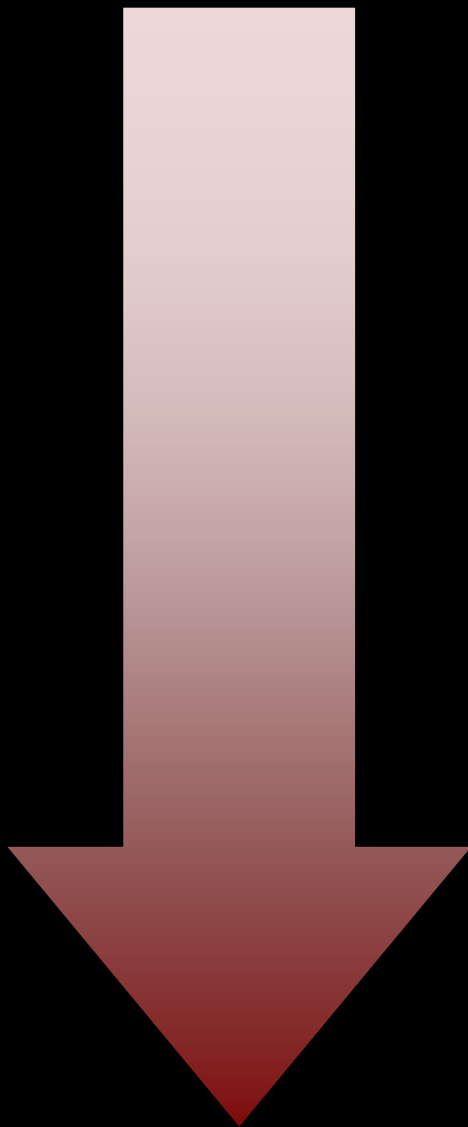
○ キャリア教育ネットワーク事業

小・中一貫型キャリア教育プラン

□ スケジュール

□ 予算

結論



□三次市の教育都市づくりの中で、キャリア教育は柱の一つに数えられている。現在の学力向上の成果と合わせ、まちづくりと教育という関係で、キャリア教育は、今後の三次市にとって大きな施策の一つになることが必要である。

□ヒアリング調査などから、小学校・中学校間の一貫した教育プログラムがなく、JA・商工会などの関連団体間の連携という面では、進んでいないことが判明した。この課題に対応するために、小・中一貫型のキャリア教育プログラムの形成、地域一体となったキャリア教育推進体制の構築が必要ながわかった。

□このプログラムの実施を通じて、児童・生徒間で地域資源活用能力が高まり、地域資源を中心とした人口増、所得増、地域としての一体感の高揚などの中期的なまちづくりが可能になることが想定される。

(1) 学力マニフェスト ～少人数教育・習熟度別クラス編成による展開

教育特区としての試み（市独自の教員採用）

がんばる地域交付金を活用した学力増進事業の実施

知・徳・体が一体となった事業実施

→結果として・・・全国平均値を追い抜く、驚異的な学力の向上

(2) 学力向上とまちおこし ～学校は出たけれど・・・（ヒアリング調査から）

高校・大学を卒業しても地元には職がないという状況

地元ではなく、都会で働き、暮らしたいという状況

たとえ地元に残っても、どんな仕事があるのかわからない状況

教育改革の成果を活かしつつ、新たな教育施策の展開が必要

今後の方向性（１）

ふるさと教育の拡充

地域の自然・文化・歴史を愛する
心の育成

地域の課題・問題を認識する力の
育成

地域の課題・問題を解決する技術
の習得

今後の方向性（２）

積極的キャリア教育の拡充

外部からみた郷土の資源価値の再
確認

ビジネスを通じた外部とのコミュ
ニケーション訓練

体験学習にとどまらない自分たち
による起業活動体験

「ないものねだり」から、地域資源を理解し活用していく教育へ

1. 先行事例調査（三鷹市・仙台市）

2. 三次市事前調査（新聞・インターネット）

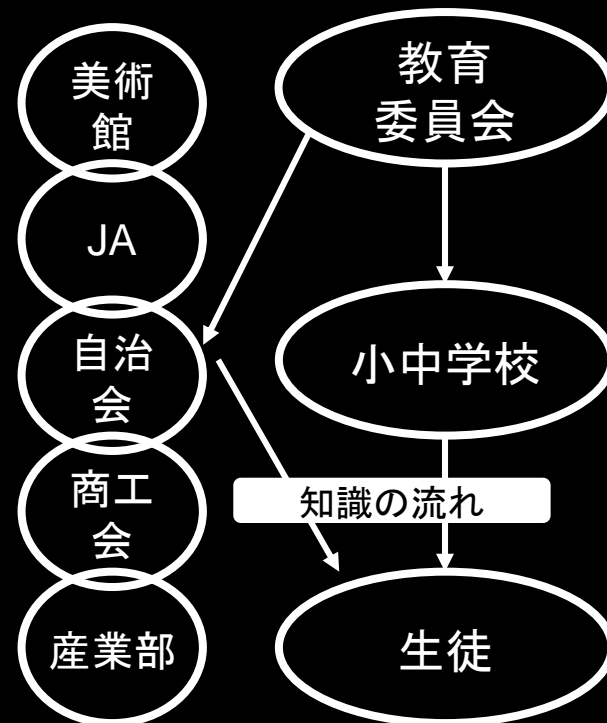
3. 仮説形成

- ・ 被調査者の決定
- ・ 聞き取り項目の決定
 - ・ しくみ：市全体での体制？
 - ・ 教育内容：小中間の連携プログラム？
 - ・ 教育に対する想い

4. ヒアリング調査実施・分析

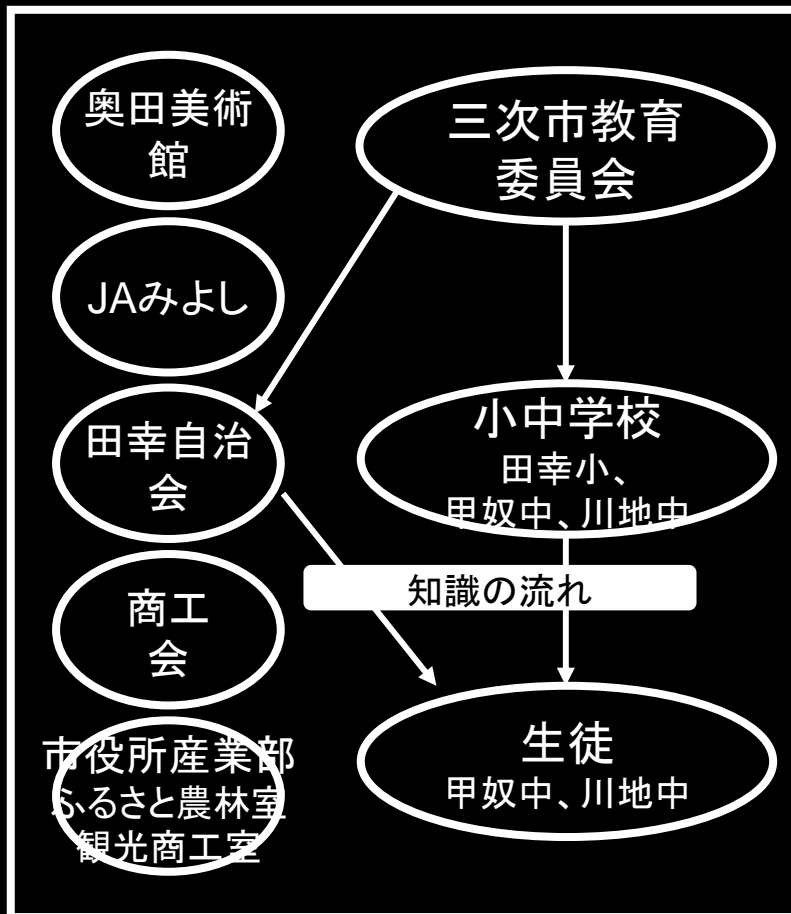
5. 施策提案

☆当初想定関係者モデル



ふるさと／キャリア教育関係者の現状と課題、
それぞれの主体への想いについてヒアリング調査

1. 被調査者



2. 調査項目

- それぞれの団体が感じているふるさと教育／キャリア教育の現状と課題
- 地域資源関係者との関連性について
- それぞれの団体・個人の活動と三次市のまちづくりとの関連性について

など

各種12団体・個人へのヒアリング調査を計画

	田幸小学校: 地域と連携したふるさと学習	甲奴中学校: 独自モデルで職場体験	川地中学校: 地域の老人会と福祉活動
現状	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間に体験学習 「人間力」を目標に道徳教育 ⇒学力も向上 郷土愛をもって世界にはばたく大人へ 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 県モデルをもとに独自モデルを作成 職場体験の実施 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 社会教育力の育成 総合的な学習の時間に福祉活動 起業教育はアイデア段階まで
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンターをはじめ地域団体と連携 地域住民が積極的に支援 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 甲奴キャリア教育推進委員会の活動 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携が密
課題	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域外に目を向けていない 起業教育は準備段階 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校との差別化 職場体験の業種が限定 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 匠継承事業への応募意欲が希薄 生徒の地域体験が希薄 教員も地域について知識不足
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会との関係がよくない 企画段階での取りまとめ役なし 中学校との連携なし 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携が希薄 職場体験受け入れ先との双方向性が希薄 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校との連携なし 教員内の温度差あり

ふるさと学習・キャリア教育の授業はあるが、各団体との連携が薄い

	教育委員会: 推進委中心の取り組み	ふるさと農政室: 地産地消の推進に積極的	観光商工室: 職員提案で匠継承事業
現状	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアアドバイザー50人登録 ・ 市独自の教員向け研修講座 ・ 学力向上日本一 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食の地産地消化 ・ 女性部などと地域資源の再評価活動 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 匠継承事業の実施 (職員提案) ・ インターンシップの実施
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市キャリア教育推進委員会の設置 ・ 教育特区の認定 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との連携あり ・ 地域住民との連携あり 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校と強いつながり ・ 商工会との強いつながり ・ 市内優良企業とつながり
課題	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策内容が薄い ・ 現場の視点が弱い 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティへの依存傾向有 	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 匠の人脈データベース化なし
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体との連携が希薄 ・ 市長と県教委の板ばさみ ・ 予算不足 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教委、JA、商工会、市食育推進チーム、自治会との連携なし 	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JAとの連携なし ・ 教委との接点なし ・ 匠推進事業の予算小

充実したプログラムの一方で、地域団体との連携希薄、予算不足

	田幸コミュニティセンター: 活動の体系化と人材不足の克服	JA: 好実績な「ちゃぐりんキッズ」	商工会: 地域連携でコンセプトの実現化が目標
現状	<コンテンツ> ・ 食農教育、地産地消活動の実施 ・ 郷土誌DVDの作成	<コンテンツ> ・ 「ちゃぐりんキッズ」7年目 ・ 西部ちゃぐりんキッズで販売活動	<コンテンツ> ・ 小学生の社会科見学うけいれ ・ 起業家育成のコンセプト作成 ・ 新規創業に注力 (経営革新塾)
	<体制> ・ 老若男女が集まる ・ 事務局常勤2人	<体制> ・ 地域団体との強い連携 ・ 市食育推進チームへ連携よびかけ	<体制> ・ 行政との強い関係 ・ 社員に情熱 (16名社員+4名パート社員)
課題	<コンテンツ> ・ 農村地域ゆえキャリア教育むずかしい ・ 子どもの祭り参加促進	<コンテンツ> ・ 平日だと保護者が非協力 ・ 休日だと教員が非協力	<コンテンツ> ・ 起業教育プログラムなし ・ 職場体験、匠継承事業では受け入れ先の紹介のみ
	<体制> ・ 学校側からの働きかけで動く ・ 人脈づくりの未体系化 ・ 長期的視野の欠如	<体制> ・ 教委との連携なし ・ 人材育成に関する議論なし (行政主導を期待)	<体制> ・ 他団体との役割分担の明確化 ・ JAとの協力体制なし ・ 教員との交流なし

団体間の問題意識の共有、実現に向けた協力体制が課題

	奥田玄宗・小由女美術館： 既存施設を生かす外部とのつながり希薄
現状	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度入館者25万人（8000万円黒字） ・ 年1回、小中学生の作品鑑賞会
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ボランティア「ゆめスタッフ」の運営協力 ・ 常勤スタッフ3名
課題	<p><コンテンツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップは年1回程度のみ ・ 「アート・アイ・吉舎」との差別化
	<p><体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中の美術教師、市社会教育セクションとの連携なし ・ 市民とのつながり弱い ・ 学校間の温度差あり

学校、地域、行政とのつながりづくりが課題

凡例：

- ◎…現在、かなりの事業で連携
- …現在、一部の事業で連携

- △…現在連携を模索中
- ×…連携がまったくない

	小学校	中学校	教委	農林室	観光商工室	コミュニティセンター	JA	商工会	美術館
小学校		×	○	○	○	△	◎	○	×
中学校			○	△	○	○	×	○	×
教委				×	○	○	×	○	×
農林室					○	○	○	×	×
観光商工室						△	×	×	×
コミュニティセンター							○	×	×
JA								×	×
商工会									×
美術館									

連携があるのは一部、意欲はあっても実現していない

田幸小学校

川地中学校

甲奴中学校

現状

- ・食農、安全、福祉、教育
- ・「人間力」の教育

- ・SST (social skill training)
- ・総合的な学習の時間に福祉活動

- ・キャリア教育推進委員会
- ・県のモデルを基に独自のキャリア教育

課題

- ・ふるさと教育中心
- ・取りまとめ役がない
→「あうん」の呼吸

- ・教員、生徒、地域のコミュニケーションが消極的
- ・小学校との関係が希薄

- ・コミュニティとのつながりが希薄
- ・小中でのキャリア教育の差別化

小学校においては地域との関わりがあるものの
中学校になると地域との関わりが希薄になる

教育委員会

ふるさと
農林室

観光商工室

現状

- ・学力向上日本一
- ・市自ら1億円をかけて教員採用(のびのび教員)

- ・地域資源の再評価
- ・君田、布野での地域特産メニユー

- ・匠伝承事業の実施
- ・職員提案が受け入れられた

課題

- ・キャリア教育施策の中身が薄い
- ・他団体との連携が希薄

- ・JAとのつながりが弱い
- ・他団体との連携が希薄

- ・人脈のデータベース化がなされていない
- ・匠伝承事業の予算が少ない

他団体との連携が希薄であるほか、
予算等の関係から施策の進展度も十分とはいえない

田幸
コミュニティ
センター

JA

商工会

現状

- ・食農教育、地産地消の実施
- ・見守り活動

- ・ちゃぐりんキッズ 7年目
→5年間でのべ3,000人参加
- ・地域団体との関わりが強い

- ・起業家育成に向けた強いコンセプトだけを作成
- ・新規創業に力を入れている

課題

- ・人脈のデータベース化がなされていない
- ・短絡的な視野でしている

- ・教育委員会との連携がない
- ・人材育成議論がない
→行政のリーダーシップに期待

- ・JAとの連携がない
- ・キャリア教育推進委員会には代表者が形式的に参加するのみ

教育との関連度が低い
将来を見据えたビジョンがない

美術館

現状

- ・集客数25万人
- ・企画を出すのに十分なスペース

課題

- ・小中の美術の先生や社会教育セクションとのつながりが弱い
- ・市民とのつながりも弱い

設備・集客力は十分だが、それを教育に活かさきれていない



課題を整理すると

教育プログラム形成

連携体制構築

- ・キャリア教育の目標があいまい
→段階的プログラムがない
- ・人材のデータベース化がなされていない

- ・互いの団体の連携が基本的に弱い
- ・方向性が一体化していない

このまま改善がなされなければ・・・

- <地域>
- ・人口が減る(高齢化が進む)
 - ・税収が減る
 - ・地域の伝統行事が維持できなくなる
 - ・地域にあるものが活用されない

- <産業>
- ・産業全体の後継者がいなくなる
 - ・働く意識の低下、ニートが増える
 - ・地域経営に必要なノウハウが共有化されない
 - ・全国的な地域振興の流れに遅れる

- <教育>
- ・教育関係投資が戻ってこない
 - ・学校が面白くなる
 - ・市外校への生徒流出
 - ・学校が孤立化する
- など

みよしキャリア教育ネットワーク事業構想
～ はじめる・つながる・うまれる・うみだす ～

教育プログラム形成

- ・小・中一貫キャリア教育
- ・各団体の人材のデータベース化
→共有化

連携体制構築

- ・各団体の実務家レベルでの
プロジェクトチーム構築
- ・それぞれの団体の事業の連携

結果として・・・事業の効果

< 地域 >

- ・人口増・税収増
- ・地域の伝統行事の継承
- ・中心市街地の活性化
- ・地域としての
一体感の高揚など

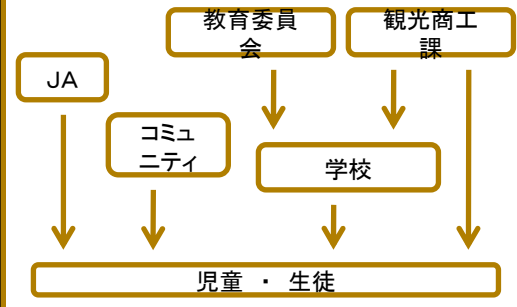
< 産業 >

- ・後継者の登場
 - ・新規産業創出
- など

< 教育 >

- ・労働意欲の向上
 - ・進学率の向上
 - ・離職率の低下
- など

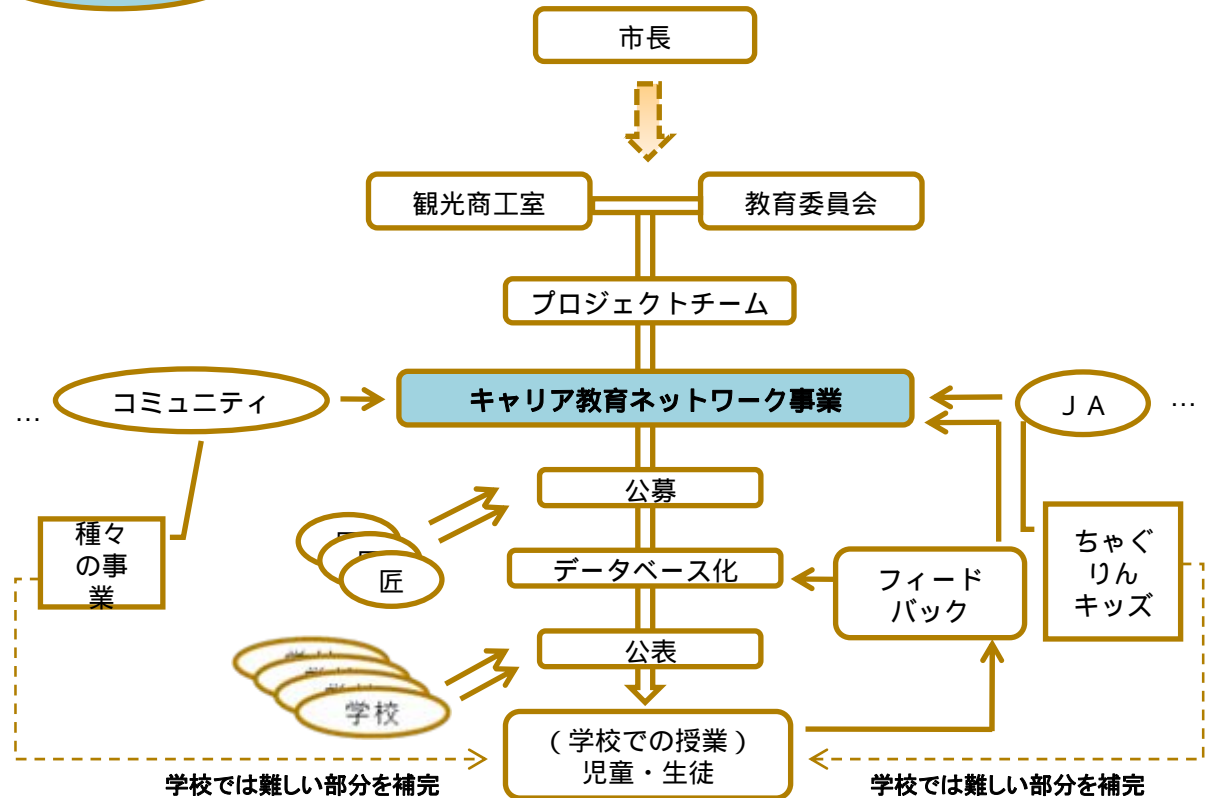
従来



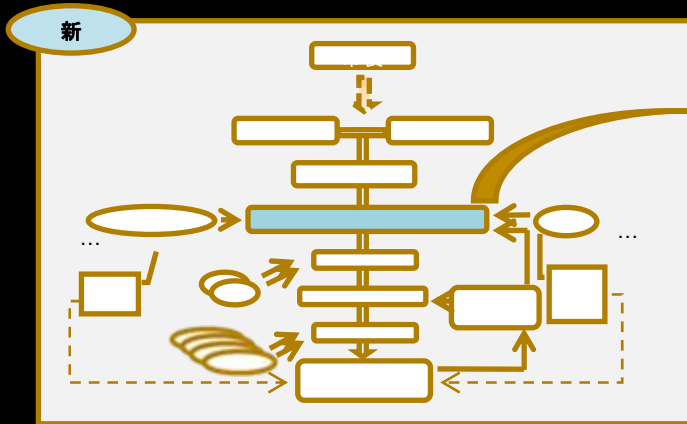
問題点

各団体等がそれぞれに
施策を実施
非効率的な事業の実施

新



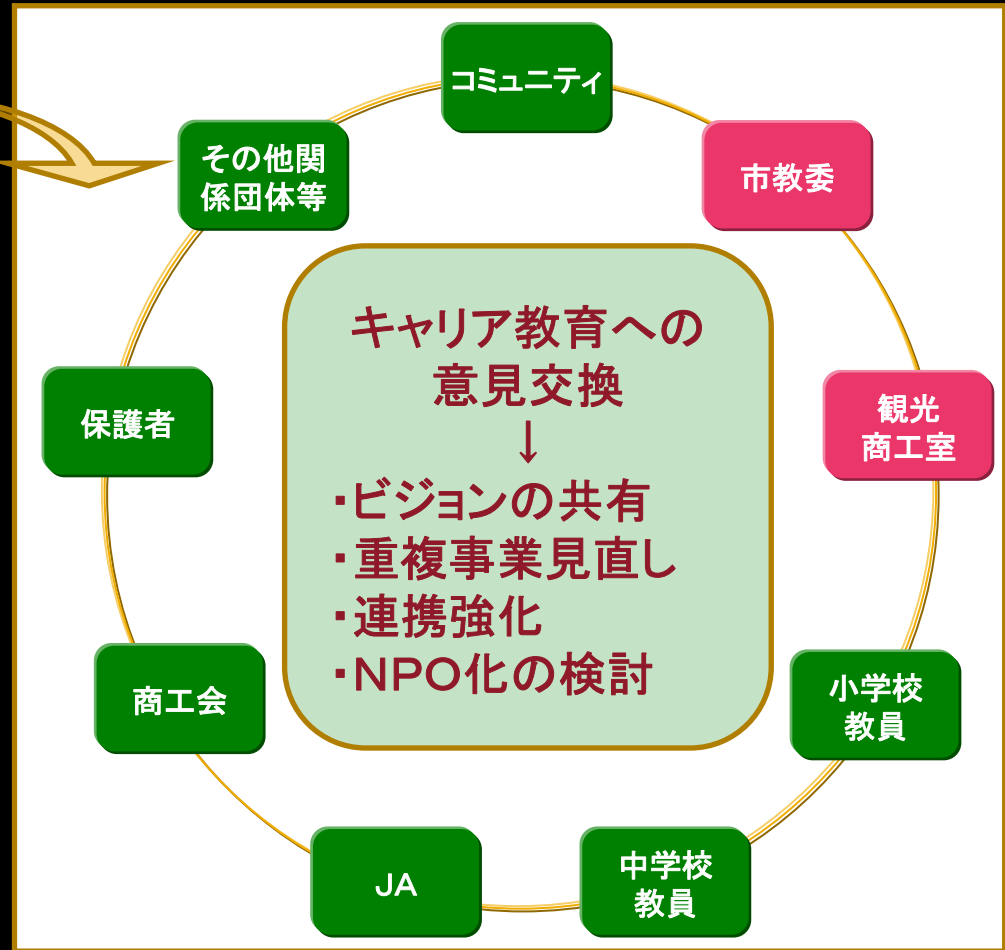
様々な団体において行われている事業をネットワーク化
→各団体が一体となって効率的かつ計画的な事業展開へ



実施目的

1 市教育委員会と観光商工室が中心となって、既存事業の関係団体等をネットワーク化する

2 ネットワークにおいて「ステップアップ型・小中一貫キャリア教育」のプランを策定する



ネットワークにおいて新キャリア教育の中心となる指針を策定
→指針を前提とした三次市キャリア教育の統一

領域	領域説明	能力説明	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年	
人間関係形成能力	<ul style="list-style-type: none"> 個性を尊重、発揮する コミュニケーションを図り協力してものごとに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の理解能力 コミュニケーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良く遊ぶ 人前で発表をする ありがとうを言う ごめんなさいを言う 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のおよところを見つける 感謝が言える 自分の気持ちを分かりやすく話す 友達と協力して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所や短所を理解する 自分と異なる意見にも耳を傾ける 相手の立場になって行動する 積極的に班活動などに参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の個性を理解し伸ばそうとする 悩みを相談できる人を持つ 積極的な意思疎通をはかる 異年齢とも適切な関係を構築する
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く情報を活用し進路選択等に活用する 情報発信に必須のITスキルを習得・活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・探索能力 職業理解能力 IT活用能力 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事について興味をもつ お手伝いをする パソコンに触ってみる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職業があることがわかる パソコンを使ってみる ネチケットを踏まえてのコミュニケーションをはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な産業・職業の様子が分かる 体験したことと自分たちの生活とのつながりを考える パソコンで欲しい情報を収集する 必要な情報の取捨選択をする 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業と今の職業とのつながりがわかる 職業体験を通じて進路を考える プレゼンテーションソフトを使って自己表現する ウェブを活用して情報発信する
将来設計能力	<ul style="list-style-type: none"> 社会の現実を見つめながら自己の将来を設計する 	<ul style="list-style-type: none"> 役割把握/認識能力 計画実行能力 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事について興味を持つ 準備と片付けをする 時間を守る 	<ul style="list-style-type: none"> チームで仕事を分担することの大切さに気づく 作業の計画を立てて手順を理解する 将来の夢や希望をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会全体の役割を理解する 夢へ向かってやるべきことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の中での自分の役割を考える 自分の適性を理解し将来の方向性を考える
意思決定能力	<ul style="list-style-type: none"> 自らの意思で選択・決定する 選択・決定の過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する 	<ul style="list-style-type: none"> 選択能力 課題解決能力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちが言える 決められたことに自分でとくむ 	<ul style="list-style-type: none"> してよいことといけないことの区別がつく 責任感を持ってやりとおす 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある課題を見つける 課題の解決策を複数考える 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の適性に基ついてよりよい選択をする 積極的に課題に取り組み自分たちの力で解決していくとする
地域資源活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ないものねだりをするのではなく、今ある資源を活用し、創り出す 自分を育てた環境について理解し、自分自身を見つめる 	<ul style="list-style-type: none"> 資源活用能力 開発創造能力 自己理解・自己分析能力 (アイデンティティの涵養) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加する 自分の近所の人と話す 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に積極的に参加する 地域の人々の仕事や暮らしを知る 地区にある様々な施設を知る 地域の歴史や文化に触れる(体験する) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に積極的に参加し盛り上げようとする 他との比較から地区の仕事や暮らしをみつめる 地域資源を活用していく方法を考える(起業実習) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事をよりよいものにしていくとする 地区のこれからについて考え議論する 起業実習で学んだことを生かして職場体験する 地域の歴史について学び、伝えていく

既存学習プログラムをふるさと／キャリア教育の観点から再構築
→「地域資源活用能力」と「ITスキルの習得・活用」を追加

再構築のポイント

1 地域についての理解を深めた上で、地域にある資源を活用し、新たな価値を創りだしていくことを目指す「**地域資源活用能力**」の領域を導入

2 「情報活用能力」の領域に、今後のキャリア教育において必要不可欠な「IT活用能力」という観点を導入（ふるさとでの起業にも有効なスキル）

領域	領域説明	能力説明	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年	
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く情報を活用し進路選択等に活用する 情報発信に必須のITスキルを習得・活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・探索能力 職業理解能力 IT活用能力 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事について興味をもつ お手伝いをする パソコンに触ってみる 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職業があることがわかる パソコンを使ってみる ネチケットを踏まえてのコミュニケーションをはかる 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な産業・職業の様子が分かる 体験したことと自分たちの生活とのつながりを考える パソコンで欲しい情報を収集する 必要な情報の取捨選択をする 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業と今の職業とのつながりがわかる 職業体験を通じて進路を考える プレゼンテーションソフトを使って自己表現する ウェブを活用して情報発信する
地域資源活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ないものねだりをするのではなく、今ある資源を活用し、創り出す 自分を育てた環境について理解し、自分自身を見つめる 	<ul style="list-style-type: none"> 資源活用能力 開発創造能力 自己理解・自己分析能力 (アイデンティティの涵養) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加する 自分の近所の人と話す 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に積極的に参加する 地域の人々の仕事や暮らしを知る 地区にある様々な施設を知る 地域の歴史や文化に触れる(体験する) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に積極的に参加し盛り上げようとする 他との比較から地区の仕事や暮らしをみつめる 地域資源を活用していく方法を考える(起業実習) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事をよりよいものにしていこうとする 地区のこれからについて考え議論する 起業実習で学んだことを生かして職場体験する 地域の歴史について学び、伝えていく

職業観、勤労観、郷土愛を育むとともに、必要なスキルを習得

1. 小学校 低学年（1～2年生程度）

- ・ **職場訪問（市教育委員会事業）**

＜狙いと目的＞ 地域の仕事に触れさせ、様々な仕事がある地域にあることを理解させる。

2. 小学校 中学年（3～4年生程度）

- ・ **「ちゃぐりん事業」（JA三次事業）**

＜狙いと目的＞ 農作業体験から生命の大事さ、尊さなどを理解させる。

3. 小学校 高学年（5～6年生程度）

- ・ **「匠伝承事業」（三次市観光商工室事業）**

＜狙いと目的＞ 地域の伝統的な技能、手作り体験から
地域の持つ真の価値を気づかせる。

4. 中学校

- ・ **「職場体験学習」（市教育委員会事業）**

＜狙いと目的＞

地域での仕事の厳しさ、やりがい感、地域での仕事の課題などを体感する。

- ・ **「食品加工／販売体験（一部インターネット販売体験含む）」（新規事業）**

＜狙いと目的＞

地域食材の加工、販売を通じて、商品価値を認識させる。その際には、インターネットでの情報収集、販売などを行い、ITを通じたビジネス手法も同時に理解させる。

項目／年度	19	20	21	計
1. 先進事例研究・情報収集	80千円@20千円× 4日			
2. 教育委員会・観光商工室間 でのタスクフォース結成	100千円@会議3回 20千円×5日			
3. 各種団体へのプロジェクト チームへの参加呼びかけ	30千円@チラシ印 刷代等			
4. 地域資源データベース化		80千円@20千円× 4日(人件費等)		
5. 関連団体事業との連携開始		100千円@会議3回 20千円×5日		
6. 小・中学校での事業展開		4000千円@実施 小・中学校20校 ×200千円	4000千円@実施小 中学校20校×200 千円	
7. 関連団体・地域住民を中心 としたキャリア教育NPO結成			100千円@会議3回 20千円×5日	
合計	210千円	4180千円	4100千円	8490 千円

□本提案では、地域一体となったキャリア教育推進体制の構築、小・中一貫型のキャリア教育プログラムの形成の必要性を示した。

□キャリア教育推進体制の構築に関しては、行政内でプロジェクトチームを結成し、その後に、JA、商工会などにおける実務家層に参加を呼びかけながらの体制構築の必要性を示した。

□小・中一貫型のキャリア教育プログラムの形成においては、従来の内容に加え、情報活用能力におけるITスキルの向上、企画力を中心とした地域資源活用能力を整備することを示した。

□これらの形成・構築を通じて、児童・生徒間で地域資源活用能力が高まり、地域資源を中心とした人口増、所得増、地域としての一体感の高揚などの短・中期的なまちづくりが可能になることが想定される。